

第3回 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 （議事録要旨）

日時： 平成27年11月10日（火） 午後6時30分～8時30分

場所： 中央区役所 8階 第1会議室

議事次第：

1 開 会

2 議 題

- (1) 「中央区日常生活の状況に関するアンケート調査」結果（案）の報告
- (2) 現状把握と情報共有『閉じこもりを予防するために必要なこと』
- (3) その他

3 閉 会

<配布資料>

資料1 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会委員名簿

資料2 中央区日常生活の状況に関するアンケート調査の結果（案）

資料3 第2回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会（議事録要旨）

出席者【委員】

川村 岳人	健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授
高橋 恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
鈴木 健一	中央区立敬老館統括館長
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター管理者
八木 英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
木村 和代	民生委員（京橋地域）
平賀 淳子	民生委員（日本橋地域）
立岩 絹子	民生委員（月島地域）
川端 武二	町会役員（京橋地域）
安西 暉之	町会役員（日本橋地域）
鹿島 新吾	町会役員（月島地域）
小倉 さなゑ	ほがらかサロン構成員
小川 京子	高齢者クラブ連合会役員
佐久間 保人	天空新聞製作委員会構成員
平林 治樹	企画部長
黒川 眞	福祉保健部長
長嶋 育夫	高齢者施策推進室長

(敬称略：順不同)

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	高齢者福祉課長	これより第3回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を開催いたします。
2 議題 (1)「中央区日常生活の状況に関するアンケート調査」結果(案)の報告	会長	議事に入ります。事務局からお願いします。
	高齢者福祉課長	配布資料の確認。
	会長	議事に入る前に、前回までの振り返り。
	高齢者福祉課長	「中央区日常生活の状況に関するアンケート調査」結果(案)(資料1)説明。
	会長	<p>会長より、クロス集計ではなくもう少し複雑な統計分析の手法を用いて独自に分析した結果について、資料の用意はないが口頭で説明する。</p> <p>「外出の程度」で、「週に1日程度」(4.7%)、月に2～3日以下(4.0%)、合計9.0%弱が閉じこもりに該当すると考えた上で、こういった特徴を持つ方が孤立に陥る傾向があるかということ进行分析した。</p> <p>年齢が高くなればなるほど閉じこもりになる可能性が高い。健康でないと答えた方も閉じこもりになる可能性が高い。意外な結果だが、居住年数が長いほど閉じこもりになる率が高くなる。この統計分析は年齢の影響を差し引いて捉えても、居住年数の長い人のほうが閉じこもりに該当しやすい。理由は私自身もまだ結論が出せていないが、客観的なデータはそうなっている。</p> <p>予想に反して、一戸建てに住んでいるのほうが閉じこもりになるリスクが高い。本来なら逆と思うが、集合住宅に住んでいるのほうが閉じこもりに該当しにくい。</p> <p>集合住宅も1階に住んでいる方と20階に住んでいる方の違いも検討したが、高いところに住んでいるから閉じこもりがちになるという結果は得られなかった。</p> <p>家庭や地域社会の中の役割と閉じこもりの関係では、役割のない方は閉じこもりに該当しやすい。一番閉じこもりになりにくい役割はボランティアだった。</p> <p>近所づきあいと閉じこもりの関係では、近所づきあいの少ない</p>

方は閉じこもりになるリスクが高い。

人間関係の減少と閉じこもりの関連では、人間関係が減少した方は閉じこもりに該当しやすい。

役割をつくり出すこと、近所づきあいを活発にすることが閉じこもりを防止する上では有効であるということがデータによって裏付けられたということになるかと思う。

以上は全体の結果だが、地域別では若干違う結果が出ている。

京橋地域が独特なのは、ひとり暮らしをしている方は、ひとり暮らしではない人と比べ、閉じこもりになりにくいということがはっきりとデータで出ている。もう1つの特徴としては、人間関係がこの10年で減少したと答えた方はほかの地域よりも閉じこもりになるリスクが一気に高まる。なかなか解釈が難しいが、一応、数字上はそうなっている。

日本橋地域は3地域の中で一番ユニークなデータが集まった。例えば、日本橋地域だけは、暮らし向きが苦しいと答えた方は閉じこもりになりやすいという結果が得られた。なぜなのか、ぜひ教えていただければと思う。居住年数と閉じこもりの関係性は日本橋地域では見られなかった。どうしてかはちょっと議論が必要かもしれない。それから、10年間で人間関係が減少したと答えた方は閉じこもりになりやすいという結果は見られなかった。京橋ではかなり強く関係していたが、日本橋では統計上のデータをみる限りは、何も関係がない。地域によって閉じこもりになりやすい要因が異なる可能性があることがわかる。

月島地域は、ほぼ全体のデータと変わらない。回答者数が一番多かったのが月島地域なので、必然的に全体に影響を与えたことが考えられる。月島地域では、一戸建てに住んでいる人ほど閉じこもりになりやすいという傾向は見られなかった。月島地域では、集合住宅に住んでいるか、一戸建てに住んでいるかという違いは閉じこもりには何も関係がない。

以上が私の閉じこもりに関する現状分析の結果報告になる。地域による違いも注目すべきと思うが、補足をすると、あくまでその人が外出をするかどうかという違いだけだ。外出はするが、だれとも会話をしない、だれとも知り合いがいなくて、そのまま自宅に帰る方は、外出はするが社会的に孤立しているということで、閉じこもりと社会的孤立の問題は重なっている部分もあるが、決してイコールではない。今回はあくまで閉じこもりに関しての報

告ということをご承知おきいただきたい。

中央区は全国に比べると閉じこもりがちの方は少ないようだということが見えてきた。一方で、近所づきあい、人と話す頻度、つまり人間関係の点に注目をする、全国より少し低い。今日は閉じこもりがメインテーマということで説明させていただいたが、この懇談会の中では閉じこもりと社会的孤立、両方を考えていく必要があると考えている。

委員

月島地域だが、長屋があったときは、雨が降ったらみんなで玄関先を掃除したり隣同士で話げできた。集合住宅に入ると同じフロアにいても顔を合わせる機会がない。だから、閉じこもりは集合住宅が増えたことが影響しているのではないかと思っている。町会に入っていないなどいろいろな人がいるので、それが一番難しい問題になっている。

会長

外出はしているが人間関係がない。だからそれぞれの生活がそれぞれで完結してしまっている。行動の分析だけではなく、実際に人間関係はどうかを見ていく必要がある。

委員

集合住宅に住んでいる方の訃報が全然わからない。集合住宅の管理組合と町会の意思疎通ができないのが日本橋地域の現状だと思う。

もうひとつ、日本橋地域に関して、暮らし向きが苦しいと閉じこもりになりやすい、これはちょっとよくわからない。

委員

一戸建の人は閉じこもりになりやすいというのが全然わからない。

委員

集合住宅の中で、サークルなどのつながりがあるのでは。

委員

高齢になるほど出るのが億劫ということがあるのではないか。

副会長

外出頻度を見たのでこういう結果になったのかもしれない。もう少し人との交流を含めて閉じこもりの予防を考えるとよい。

委員

外出の程度ではなく、近所づきあいの程度で見た方がよい。

会長

集合住宅に住んでいる人は、外出を促すより人間関係を増やす場をどうやって地域の中につくるかが政策的な課題になる。一戸建に住んでいる人は、健康状態が悪化するなどのきっかけで外出できなくなると人間関係も縮小するので、今、人間関係を豊かに持っている人が閉じこもりになった時にどう支援できるかという観点から対策を立てた方がよい。データと委員の実感を重ね合わせると、集合住宅と一戸建でずいぶん違う。それが混在しているという地域特性を踏まえた対策が必要という感じだろうか。

(2) 現状把握と情報共有
『閉じこもりを予防するために必要なこと』

委員

アンケートの回収率は 37.9%で、回答がなかった 62.1%は
どういう方だろうか。仕事が忙しく協力できなかった人もい
るだろうが、社会参加を拒絶している方もいるのではないか。回
収結果だけですべてを語っていいのかと思う。

地域活動に関する情報を得る媒体として区のおしらせが一
番という結果が出たが、一步を踏み出せない人に手をさしのべ
たり、背中を押すことが必要ではないか。仕事をリタイアした
ばかりの人には、講座への参加より、講師としての活動と呼び
かけていく必要があると思った。

委員

私も回収率が低いと思った。回答していない人は地域に埋も
れてしまうのではと感じた。

女性の場合は実際に、デパートに行って知り合いの店員と話
すのが楽しいなどの声があり、そういう所に行くことを目標と
している人もいる。

地域ケア会議では、マンションの住民が町の行事に出やすい
ように架け橋になってくれる人がいる、地域のために考えてい
くという意識を高める、栄養士がいてみんなで食事ができる場
所がある、などのアイディアが出ている。困っていることでは、
男性高齢者へのアプローチで、現役で仕事をしている方は地域
の行事に関する情報源を持っていないや住民票の住所と実際
に住んでいるところが違うなどの意見をもらっている。

緊急連絡先の把握という点では、見守りキーホルダーを普及
して、緊急連絡先が把握できるように努力している。

京橋地域ではラジオ体操の仲間がいて、寒くなるとラジオ体
操がお休みになるので、自宅をまわって声をかけるといった人
間関係がある。自宅の鍵をかけずに近所づきあいをしている高
齢者もいるが、そういうつきあい方をしない下の世代でどうつ
ながっていくかは課題だと思う。新しい喫茶店ができて、朝食
仲間のグループができることもある。京橋地域の中でも地域差
があるが、深く人づきあいをしているところの良さを分析し
て、どうすれば保っていけるか考えることが大事と思った。

委員

集合住宅への対応が課題とっていたので、細かい分析の必
要を感じた。中央区では9割が集合住宅に居住しているが、ア
ンケートでは4割が一戸建に居住と回答し、実態との乖離があ
る。一戸建に住んでいる人の回答率が高かった、区政に関心が
あったり協力したい人が多かったという一面もあるのかもし

れない。

古くからある集合住宅と最近できた集合住宅を一緒に論じられないとも感じている。再開発でできた新しい集合住宅の中で古くから住んでいた人たちだけが集まる活動もある。

孤立感是人それぞれだと思う。外出頻度、近所づきあい、会話の頻度、頼れる人、そういうものが少ない層へのアプローチが孤立解消につながる。

中央区にはいろいろな資源がある。出てきてもらう仕掛けよりこちらから出向いていく仕掛け、例えば地域福祉コーディネーターなど、地域の問題をワンストップで受け止めるような仕組みなどが必要だ。

委員

ひとり暮らしの高齢者にも「自由がいい」と充実した日々を送っている人もいる。生き方、幸せ度は皆違うので、まとめられない。若い人から高齢者まで飲み会をするといった、自然とできた集まりが結果的に孤立を防いだり、高齢者自身を持っているものを活かして活動し、皆が喜んでくれることが生きがいになる。そういうことが大事ではないかと思う。

委員

中央区はデパートや劇場、映画館も多く、それは都心区の利点だと思う。高齢者の見守り、ふれあい福祉委員会の活動をしていると、高齢者の方から感謝の言葉などをいただき、こちら嬉しい。町内の清掃活動では集合住宅の方も参加して、それをきっかけに食事会をしたり、個人的なおつきあいができるようになることもある。そういうことがどんどんできたらよい。

委員

脳梗塞を患ったあと、言語障害になり、引きこもりになった方のことをお話ししたと思うが、ここで孤立や閉じこもりの問題を話し合ってから、用事がなくてもちょくちょく訪問するようにしたら、とても良くなった。

しかし、自治会の行事などにも参加しないし、昼は閉じこもっていても、人が寝静まった頃にコンビニにお使いに行くなど、閉じこもりの中にもいろいろなケースがあり、アプローチが難しい。

アンケートでは「区のおしらせ」を見ている人が多いことに驚いた。新聞をとっていない方が結構いらっしゃるので、1日は自治会で配り、11日、21日はシニアセンターからもらってきて配布しているが、これを続けないといけないと思った。

委員

地域メディアを通して、60歳前の方にアプローチをしてい

	<p>る。地域デビューのすすめや、自分の能力や経験を地域に活かすなど、閉じこもりの予防的な観点で特集を組んでいる。</p>
	<p>また、自分たちで企画を立てて実行する取り組みをしようとしている。若い人に、60歳以上の人が出演するミュージカルをぜひやりたいと言われて、後援することにした。民間でやることは進んでやっていきたい。</p>
委員	<p>火災や地震の時に助けに来てくれるかどうかを心配している人に老人会に入ってくださいと言うのだが、老人と聞くと嫌がる。災害時の住民の行動マップをつくり、公助、共助、自助で無駄のないように行動できるように、住民に配布してほしい。</p>
委員	<p>アンケート結果は、思っていたのと違うデータが出ていたり、いろいろなことを感じた。</p>
	<p>サロンのボランティアにとっては、利用者の「来ることを楽しみにしている」という言葉を喜びに感じている。先日、未遂に終わったが新しい犯罪被害の体験を話してくださった方がいた。サロンにきている人は情報が得られるが、社会参加していない方は情報を得る機会も少ないと思う。区の「見守り隊」はとてもよいシステムだと思う。もっと細かい地域に分けてグループをつくってやっていくとよい。</p>
委員	<p>さきほど自宅に鍵をかけないという話が出た。そういうコミュニケーションが下町の特徴だったが、今、警察や消防は必ず鍵をかけるよう指導している。町内ではいろいろな行事をやっており、町会への勧誘をしているが、若い人は参加しない。今、一番困っているのは、町会名簿が作れないこと。名簿に名前を出さないでほしいというのもあるし、集合住宅だと名前を知っていても部屋番号がわからなかったり、セキュリティの関係で聞いても教えてもらえない。</p>
	<p>いきいき館は利用者が増えているそうだが、雨の日は行けないという話も聞く。地域に2つくらいあればいいと思う。</p>
委員	<p>行政が仲立ちして、集合住宅の管理組合と町会と話し合う場を設けてほしい。管理組合が町会に入らなくても、個人的には町会に入りたい、町会には入らないがふれあい福祉委員会に入りたいという人がいるかもしれない。</p>
委員	<p>ここ5～6年で大きく変わったのは葬式。昔は町会役員が葬儀屋と一緒にあって葬式を出したが、亡くなった後でお知らせをいただいて町会で訃報を掲示したり、香典を出したりしてい</p>

(3) その他

3 閉会

副会長

る。盆踊りや餅つきに協力してくれる人、興味を持ってきてくれる人を勧誘して、これからもがんばっていききたい。

回収率が 37.9%で、結果がすべてを反映できてはいるが、回答しなかった方々については、委員のお話で少し補足できたのではないかと。「参加してみたい活動」の自由記述をみると、すでに中央区ではやっている。この結果をみると活動に参加しない人には、出向く仕掛けが必要と改めて実感した。

しかし、今の生活以上の大勢の人との広がりや期待していない人の気持ちも大切にしていかなければならない。また、見守り隊の活動などの地道な努力がとても大切だと感じた。また、安全な居場所をしっかりとつくっていくことも大切だと思う。

若い頃から地域との交流を進めていく必要がある。世代を超えて、みんなで関わっていくことが予防につながる。

会長

データの解釈は、地域で活動している方々の声をふまえてはじめて、しっかりと現実に到達できる。データと現場の声の往復が大事だ。外出はしているが人づきあいがいない人にはどうしたらよいかということ議論していく必要がある。

中央区にはさまざまな社会資源がある。ラジオ体操や朝食仲間といった興味深い場もあった。地域メディアの枠を超えて活動を拡大している団体もある。その場にどうやって参加してもらうか。今、参加していない人にあわせて場を適合していくことも大事になってくる。外出はするが顔と名前がわかる関係を築く機会を持っていない人が相当数いるなら、地域の清掃活動をきっかけとして食事会や個人的なつきあいに発展する事例のように、外出と顔と名前のわかる関係の構築をどうつなげるか、次の論点として大事と感じた。

高齢者福祉課長

今回は2月4日(木)、開催通知等については事前に送付する。アンケート結果について質問や意見があれば、高齢者福祉課宛にご連絡をいただきたい。